

第16回(2023年度)経営者「環境力」大賞

2023年度も「経営者『環境力』大賞」の募集を行いました。審査の結果、大賞6名、奨励賞2名の受賞が決定し、2024年3月1日にその顕彰式をホテルグランドヒルズ市ヶ谷にてオンライン併用で行いました。今月号では、各受賞者の受賞理由についてご紹介します。

【大賞】

氏名	役職	会社・所在地
井口 一世	代表取締役	株式会社井口一世（東京都千代田区）
岡 忠志	代表取締役	株式会社ダイワテック（愛知県名古屋市）
川井 伸夫	代表取締役社長	株式会社文伸（東京都三鷹市）
菅野 文吉	代表取締役会長	株式会社絹川建設工業（福島県伊達郡）
松下 寿夫	理事長	飯能信用金庫（埼玉県飯能市）
水谷 重夫	代表取締役社長	テラレムグループ株式会社（東京都中央区）

（敬称略 五十音順）

【奨励賞】

氏名	役職	会社・所在地
笠原 喜雄	代表取締役	アースシグナル株式会社（埼玉県川越市）
趙 勇樹	取締役専務	株式会社エコランド（東京都杉並区）

（敬称略 五十音順）

【授賞理由】大賞

株式会社井口一世 代表取締役

井口 一世（いぐち いっせい）氏

欧州の工作機械など海外から優れた機械を購入し、それを改造して、データに基づき金属製品(OA・FA機器、医療機器、自動車、航空機等)の部品を作る会社。

<評価点>

- 金属製品を作る際に、従来からの製造工程そのものをデータに基づいて変えることによって、金型レス、切削レスの加工技術を可能にし、それを駆使して、廃棄物やCO₂の大幅削減など環境負荷を削減するとともに、製造時間、コストも削減するなど、製造工程そのものを変革で環境と経営に貢献しようとする発想とそれを実現している点
- ものの創り方を売る会社として、ラボ（研究・実験室）＋現場で作る技術を売る会社

を目指しており、自社だけでなく、サプライチェーン全体としてのCO₂削減を目指し、日本の競争力向上にも役立つ取組を進めている点

- 金型レスや切削レス加工でかなりのCO₂が削減され、製造工程を変えることの効果が実証されていることから、当たり前のことを変えていく強いチャレンジ精神を持っている点
- 使用している工作機械は世界で最も省エネ型の機械を使用し、金型レスや切削レス加工技術で利益を上げ、その利益の20%を設備投資に充て、より環境負荷を削減できる新技術開発につなげている点
- 会社の今後の方針について各社員の意見を聞き、夢を共有することで働く意欲を高めるとともに、「恒産なくして恒心なし」の考え方のもと、社員が家族を養うのに十分な所得を得られるようにしている点

株式会社ダイワテック 代表取締役

岡 忠志（おか ただし）氏

建設現場向けのソーラーシステムハウスを主力商品として販売する会社で、東北大震災の3-4年前から新規事業としてソーラー事業を開始。東日本大震災1か月後にLED街路灯を3台寄付したことから、商売は必要な物を必要なところに届けて喜ばれることと気付き新事業を開拓。

<評価点>

- 太陽光の自然エネルギーを最大限に活用した製品で「小さな電力会社」として、自然変化により異なる発電量を、北海道から沖縄まで衛星を利用した遠隔装置で監視体制を敷くなど、データに基づいた事業展開で脱炭素社会に大きく貢献している点
- データに頼るだけでなく、節電を呼びかけつつ、電気が不足する可能性がある場合は最寄りのスタッフが充電に出向き、災害発生時には被災地近くの建設現場から被災地に持ち込むなど、きめ細かなサービスを提供している点
- 全国に工事現場を有する上場企業とも連携し、全国66自治体と災害協定を結び、社会インフラとしての役割を果たしている点（実際に能登半島地震の際も活動）
- 災害に備えるという社会性と経済性（電気を途絶えさせない）が成功のカギとなるという考えに基づく新しいビジネスモデルで、商売だけでなく、災害で困っている人を助けるという強い信念に基づく事業を展開している点
- 特に、気候変動に伴う気象災害が頻発する中で、脱炭素（対応策）と災害復興（適応策）の両面から、とても重要で将来性のある事業である点

株式会社文伸 代表取締役社長

川井 伸夫（かわい のぶお）氏

東京都三鷹市で、印刷や出版、周年事業なども行っている会社。印刷業はコストだけでなく、作り出す価値が無限にあることを知ってほしいという理由で応募。

<評価点>

- 印刷業として、版・インキなどはすべて環境基準に準拠し、アルミ板、古紙も全てリサイクル、営業車もハイブリッドに変えるなど、可能な限りの環境への取組を進め、製造プロセスから物流の最適化にも力を入れ持続可能なビジネスモデルを築いている点
- カーボン・オフセット証書で温室効果ガスのオフセット量も公開し、グリーンプリンティングの普及にも尽力するなど業界の模範となる取組を進める一方、顧客にもFSC森林認証を取得するなど環境配慮に対する理解を深める事業を展開している点
- 厳しい経営状況中で、従来の印刷会社の枠を超えて、企画提案から印刷・加工・発送までワンストップで顧客のニーズに応え、Webサイトも制作するなど、顧客のコミュニケーションをトータルでサポートし、「町の印刷屋」として「地域の人々に歓迎される会社でありたい」という精神を忘れず、時代の変化に対応した事業展開を行っている点
- 持続可能な未来のために、業界や地域のパートナーと連携し、環境への貢献や社会的課題の解決に向けて共同で努力している点
- 「年輪経営」の考え方にに基づき、持続可能な成長と組織の健全性を保つために、無謀な拡大は避け、慎重な戦略とリスク管理を実践し、社会との調和を保ちながら品質と価値を提供し続けている点

株式会社絹川建設工業 代表取締役会長

菅野 文吉（かんの ぶんきち）氏

道路、河川事業など土木工事一般、廃棄物処理業のほかに、循環型農業やバイオ炭を活用した農業普及によるJ-クレジット創出事業に取り組む会社。

<評価点>

- 農地荒廃を避けるために、バイオ炭やバイオマス炭化物を畑や田んぼの圃場（ほじょう）に土地改良剤として施すことで、土地改良効果や農作物の収穫量向上、汚染物質の除去、さらに炭素貯留効果を高めるなど、農地の保全と地球温暖化防止に向けた取組を両立させている点
- 特に東日本大震災で大きな被害を受けた福島で、福島イノベーションコースト構想の一翼として、人にも環境にも配慮し、地域の特性を生かした炭農業の効果を実証した点
- 実績を生かし、近隣地域からもみ殻や稲わらなど未利用のバイオマス資源を調達・炭化して圃場で活用し、そこで農業生産性の効果や、温室効果ガスの排出削減や吸収量のモニタリングを行うなど、科学も活かして、環境貢献ブランディング企業を目指している点
- 事業の拡大ではなく、顧客や従業員の信頼関係を築くことを第一に、次世代に役立つ責任感ある事業を目指しており、特に従業員には、「やってみせ、言って聞かせ、させてみせ、ほめてやらねば人は動かじ」（山本五十六の名言）をモットーに、働く意欲を高めている点
- ライオンズクラブでの国際協力も含めた長年の経験を活かし、会長就任後は、次世代の子供たちへの環境教育を熱心に行うなど、長い年月、社会への貢献を継続してきた点

飯能信用金庫 理事長

松下 寿夫（まつした としお）氏

飯能信金は、飯能地域だけでなく、埼玉、東京都内（多摩、杉並）もエリアとする信用金庫。

<評価点>

- 生まれ育った地域愛を原点として、個々の顧客への支援だけでなく、顧客同士の連携を後押しするなど信金としての責務を果たし、信金らしい活動を長年継続している点
- 緑と清流豊かで林業が盛んな地域で、事業者が相互扶助の精神で信金が作られたという歴史から、伴走支援型地域プラットホームとしてハブ機能を果たすことが大切として、最近は特に、脱炭素、循環経済、DXなどに先駆的に取り組む企業人を講師としたハンズオンセミナーを開催し、地域企業や住民の課題解決や、更なる地域発展に貢献する活動を率先して行っている点
- 地元の市役所、商工会議所、地域企業と連携し、地元中学生と地域の森林整備活動を行ったり、地元の西川材の普及啓発事業を林業事業者と連携して実施するなど、循環型林業のビジネスモデル構築を継続的に支援している点
- 桜の森を守る活動として、桜を植樹し森の保全を図る活動は20年以上継続。また「彩の国緑の基金」に毎年50万以上寄付するなど、継続的に自然環境保全の活動を行っている点
- 営業体制の見直しや本部車両のシェアリングにより、乗用車、軽自動車、バイクの利用を削減し、CO₂排出削減とコスト削減に取り組むとともに、外部連携先のデジタル技術を活かして、CO₂可視化サービスを提供するなどして脱炭素に取り組んでいる点

テラレムグループ株式会社 代表取締役社長

水谷 重夫（みずたに しげお）氏

市川環境エンジニアリングが50周年を迎えたことを機に、それまでもつながりのあった2つの会社の資本参加を得て、地球環境のために「もっとも存在感のある地球環境貢献企業グループ」として事業の強化を図り、新しい資源循環型ビジネスモデルの構築を目指している会社。

＜評価点＞

- 売り上げではなく社会に良いことをやっていくという創業者の理念を踏まえつつ、ご自身も会社のミッション、ビジョンが社員のパッションに繋がるというお考えのもと、数字を大きくすることより、日本で存在感があり、夢を持てる企業にしたいという強い信念を持っている点
- 欧米に後れを取っている環境立国のビジネスモデルを作りたいという目標のために、廃棄物焼却炉や中間処理施設の破砕機で圧倒的に高いシェアを持つ会社と、再エネに力を入れ廃棄物発電で将来的に有望な会社の資本参加を得て、戦略的に事業を進めている点
- 多様な再生可能資源のエネルギー利用、原材料化、再製品化など、環境に関するソリューション提供を新たな成長要因ととらえ、循環経済への移行に向けて、動脈産業と静脈産業が一緒になって、持続可能な脱炭素社会に貢献しようとしている点
- 長い間、商社マンとして海外を含め水事業に関わってきた経験と経営手腕を活かし、資源循環の分野においても新たなビジネスモデルを構築し社会に貢献しようとしている点

【授賞理由】 奨励賞

アースシグナル株式会社 代表取締役

笠原 喜雄（かさらは よしお）氏

- 再生可能エネルギー関連事業を中心に、営農型ソーラーシェアリング、EVカーシェアリングや充電事業、不動産、空き家等、様々なエネルギーに関連する事業を展開している会社で幅広い事業展開で複合的な取組を評価
- 一方で、会社組織としての整備がまだ不十分な点もあることや核となる事業が見えづらいことから、そうした点も踏まえて、これからの展開に期待

株式会社エコランド 取締役専務

趙 勇樹（ちょう ゆうき）氏

- リユース・リサイクルに関わる様々な企業と連携したユニークな取組であり、新しいリユースの選択肢を提供している点はシンプルなビジネスモデルとして評価
- 一方で、トラックや船舶による輸送に係るCO₂削減は気がかりな点であり、今後は、国内、海外輸送での排出量の算出を明確にするなど脱炭素の意識を高め、脱炭素と資源循環の双方に貢献することに期待



前列左より、松下氏代理 細田氏、水谷氏、菅野氏、川井氏、井口氏
後列左より、野田氏（環境新聞社取締役編集部長）、加藤顧問、藤村代表、笠原氏、趙氏、石川氏（環境カクラブ副会長）、大場氏（環境カクラブ監査役）